

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

19. 損傷、中毒およびその他の外因の影響

文献

福田ゆり, 東光邦. 結紮切除術の術後疼痛に対する芍薬甘草湯術前投与による鎮痛効果の検討. *日本大腸肛門病学会雑誌* 2014; 67: 324-9. 医中誌 Web ID: 2014256564 [J-STAGE](#)

1. 目的

痔核術後疼痛に対する芍薬甘草湯の術前術後投与による鎮痛効果の検証

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

診療所 1 施設

4. 参加者

2011 年 4 月から 2012 年 9 月までに受診した痔核手術施行患者 103 名

5. 介入

Arm 1: ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒 (2.5g×毎食前) 術前術後計 14 日間投与群 34 名
Arm 2: ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒 (2.5g×毎食前) 術後のみ 7 日間投与群 37 名
Arm 3: ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒非投与群 32 名

6. 主なアウトカム評価項目

Visual Analogue Scale (VAS) で表した 1 日の痛みの最大値

7. 主な結果

術後 7 日間の痛みの経時的推移では 2 日目以降、術前後投与群が非投与群と比較して有意に疼痛が少なかった ($P<0.05$)。術後投与群でも 5 日目以降で有意に VAS が低かった ($P<0.05$)。手術当日の VAS では術前術後投与群で有意に低かった ($P<0.05$)。VAS が 3 以下を疼痛解除と定義すると、術前術後投与群は非投与群に比して疼痛解除までの平均期間が有意に短縮され ($P<0.05$)、術後 6 日目における疼痛改善度においても上昇した。術後投与群は非投与群に比して有意差はないが、改善傾向を認めた。

8. 結論

痔核手術において、術前術後の芍薬甘草湯投与は術後疼痛緩和に有効である。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

明らかな有害事象は認められなかった。

11. Abstractor のコメント

本論文では、術前からの芍薬甘草湯の継続的投与が、術後疼痛緩和に有効であることが分かった。術後から開始しても一定の疼痛緩和効果があるが、術前からの投与において更に疼痛が緩和されるという結果は興味深い。一般に、芍薬甘草湯は、内服後すぐに薬効を示す処方であるため、頓服薬としても用いられる漢方であるが、連続投与することによって、甘草による偽アルドステロン症が発症しないか、注意深い経過観察が重要であることが論文中の考察に明記されている。痔核術後疼痛は手術当日が最も強いため、今回の結果は、痛みが発生する前からの内服が有効であることを示した点で、意味深いと思われる。さらに男性および若年者で芍薬甘草湯の効果が強く出る傾向が認められたことも、疼痛の発生機序 (肛門静止圧上昇や肛門括約筋痙攣) から考えて興味深い。

12. Abstractor and date

中田英之 2017.3.31